

# 自閉症児・者に対する TEACCH プログラムを活用した避難所空間の構造化に関する研究

建築計画研究室 山口 恭平

(令和3年2月8日提出)

## 1. 研究の背景と目的

東日本大震災など過去の大規模災害において、障がいを持つ人は避難所生活を送る上で厳しい環境に置かれた。特に、障がいの中でも自閉症児・者は外見での区別がつきにくく、周りから支援を受けにくい。また、一般避難所での生活が厳しい障がい者や高齢者などの要配慮者向けに福祉避難所が開設されるが、収容人数は全く足りておらず、身体特性に応じた施設の種類も少ない。つまり、南海トラフ地震のような大規模災害が発生した場合、自閉症児・者やその家族は体育館や公民館など一般避難所で多くの人々と生活を送らざるを得ない状況になるため、一般避難所における福祉スペースの強化と避難環境の改善が急務である。

一方、平常時の自閉症児・者の療育方法の一つとして TEACCH プログラムの構造化という考え方がある。これを災害時の一般避難所に応用することにより、福祉スペースの強化と環境改善が期待できると考える。また、災害時要配慮者の中でも高齢者や身体障がい者を対象にした避難所空間のあり方に関する研究は多いが、自閉症など外見での区別がつきにくい障がいに着目した研究は少ない。

そこで、本研究では、一般の避難所空間に自閉症児・者の療育方法の一つである TEACCH プログラムによる構造化を適用することで、一般避難所の福祉スペースの強化手法と環境の改善を提案する。

## 2. 自閉症児・者と TEACCH プログラムの特徴

自閉症児・者の特徴として、「相手の表情や態度などよりも、文字や図形、物の方に関心が強い」、「見通しの立たない状況では不安が強いが、見通しが立つと安心して行動できる」、「視覚や聴覚の刺激によりパニックになりやすい」、「こだわりが強い」などがある。このような障がい特性を持つ人々がコミュニティの中で自立した生活を送るための療育方法の一つとして TEACCH プログラムがある。これは、アメリカのノースカロライナ州で開発され 1972 年に州法に定められるなど、有効性が認められたプログラムである。現在、日本でも障害者支援施設や特別支援学校等で実践されている。TEACCH プログラムには 9 つの基本理念があり、その中に構造化された指導法という項目がある。構造化には、パーテーション等で空間を区切り活動と場所を結びつける「物理的構造化」、コミュニケーションをイラストなどを用いて行う「視覚的構造化」、その日のスケジュールを可視化し、見通しを持って安心して活動に取り組むようにする「時間の構造化」、一連の作業を 1 つ 1 つ区切り、行うべき順番に並べて示す「活動の構造化」の 4 つの構造化がある。

## 3. 平常時と災害時の構造化に関するヒアリング調査

徳島県内の障害者支援施設と特別支援学校を対象に平常時の構造化の実践状況についてヒアリング調査を行った。その結果、4 つの構造化が年齢や障がい特性、活動目標に合わせて実践されていることが分かった。特に、成人の入所支援と就労支援をしている障害者支援施設では、自立した生活を送れる環境づくりに重点が置かれ、児童が学習する支援学校では、見通しを持ち集中して学習できるような環境づくりに重点が置かれていることが分かった。災害時の避難所空間に構造化を適用する場合にも、個人的な配慮が必要である。

過去に被災経験があり、実際に避難所生活を送った経験を持つ障害者支援施設に対して、避難環境の現状と避難所空間での構造化の必要性についてヒアリング調査を実施した。その結果、実際の避難環境は自閉症児・者にとって厳しい環境であり、平常時の構造化された空間とは程遠いものであることが分かった。特に、間仕切りが 3 か月もの間、手に入らずパニックやトラブルが起きたことから、物理的構造化は避難所空間の要であると考えられる。そして、被災経験者の視点から、避難所空間への構造化を適用することの必要性が示唆された。

## 4. 発達障がい当事者・家族への自宅での構造化と災害時の避難環境に関するアンケート調査

徳島県内の発達障がい者 20 名を対象にアンケート調査を実施した。その結果、家庭では視覚的構造化と活動の

構造化は実施されていなかった。物理提構造化は、間仕切りを用いたエリア分けは行われていなかったが、既存のスペースにカームダウンエリアは設けていた。これは、自宅が個室や家具の配置で自然に構造化できた環境と考えると、「仕切りをしている」という意識がない可能性が考えられる。さらに、時間の構造化では、半数近くの人が実施していた。これは、見通しが立たない環境では不安を抱きやすいことが考えられる。

大規模災害発生時の避難先については、支援物資や情報を得られやすいという理由から「地域の指定避難所に避難する」と考える人や、逆に自宅以外だと不安になるという理由から「仕方なく自宅に留まる」と考えている人の割合が多かった。また、図1のとおり「避難所の福祉的なサポート面を強化すれば避難所に避難するか」という質問に対して「避難する」と回答した人が8割と多いことから、現状の避難環境を改善する必要性が確認できた。



図1 「福祉的なサポート面を強化すれば避難所に避難するか」の質問

### 5. 各府県の避難所運営マニュアルにおける福祉的配慮の現状

南海トラフ地震の被害想定が大きい8府県を対象に、各府県の避難所運営マニュアルにおける福祉的配慮の現状を調査した。表1のとおり、4つの構造化に関連する言葉について記載の有無を○×で整理した結果、物理的構造化、視覚的構造化に関する記載は全府県で見られた。時間の構造化に関する記載は大分県以外で見られた。活動の構造化に関する記載は愛知県のみであった。マニュアルの前提として支援の対象者は避難者全体であるため、物理的、視覚的な配慮に重点が置かれていると考える。自閉症児・者の立場に立つと物理的構造化を要として4つの構造化がバランスよく行われる必要があるため、十分とは言えない。また、被災経験のある障害者支援施設へのヒアリング調査で明らかになったように、物理的構造化に必要な不可欠な間仕切りさえ十分に提供されていない現状を考えると、理想と現実に大きなギャップがあるといえる。

表1 8府県の避難所運営マニュアルの構造化に関する記述の有無

都道府県名	静岡県	愛知県
避難所運営マニュアル名	避難所運営マニュアル本文、様式集、資料集	愛知県避難所運営マニュアル様式集、資料集、リーフレット集
改訂日	H30.3	H30.3
物理	間仕切りを設置	○
視覚	イラストや写真を用いる	○
時間	1日のスケジュールを決める	○
活動	作業手順を示す	×
都道府県名	三重県	大阪府
避難所運営マニュアル名	三重県避難所運営マニュアル策定指針、資料編	大阪府避難所運営マニュアル作成指針本文、参考資料
改訂日	R2.5	H29.3
物理	間仕切りを設置	○
視覚	イラストや写真を用いる	○
時間	1日のスケジュールを決める	○
活動	作業手順を示す	×
都道府県名	和歌山県	徳島県
避難所運営マニュアル名	避難所運営マニュアル作成モデル(大規模)、資料編(大規模)	避難所運営マニュアル作成指針
改訂日	R2.5	H29.3
物理	間仕切りを設置	○
視覚	イラストや写真を用いる	○
時間	1日のスケジュールを決める	○
活動	作業手順を示す	×
都道府県名	高知県	大分県
避難所運営マニュアル名	大規模災害に備えた避難所運営について(解説)	避難所運営マニュアル策定のための基本指針
改訂日	H26.10	H29.2
物理	間仕切りを設置	○
視覚	イラストや写真を用いる	○
時間	1日のスケジュールを決める	×
活動	作業手順を示す	×

### 6. 結論

本研究は、自閉症の療育方法であるTEACCHプログラムの構造化を避難所空間に適用し、一般避難所の福祉スペースの強化を目的として、ヒアリング調査及びアンケート調査を実施した。その結果、構造化されていない現状の避難環境を改善する必要性、平常時の構造化の実践例から避難所空間へ構造化を適用することの有効性、避難所空間に構造化を適用する場合、個人の障がい特性に対する配慮が必要であることが明らかになった。以上の結果を踏まえ、TEACCHプログラムを災害時の避難所空間の福祉スペースに適用することで避難空間の改善につながる提案をした(表2)。

今後は、表2の提案に対する自閉症児・者やその家族の意見収集や模擬的な避難所空間における効果の検証を行う必要がある。効果が認められた場合、避難所運営マニュアルに反映させることで周知することができると考える。

表2 平常時のTEACCHプログラムの方法を災害時の避難所空間に適用した場合の例

TEACCH	方法	効果	平常時	災害時	
			実践例	適用例	主体
物理的構造化	間仕切りを仕切る	視覚情報を制限して混乱することを防ぐ	希望の郷阿南支援学校 けやきの郷	・行政は、段ボールや間仕切りを避難所に備蓄する ・地域は、福祉スペースに優先的に間仕切りを設ける ・当事者家族は、段ボールやテントを各家庭で用意しておく	行政 地域 当事者家族
	色分けやマークによるエリア分け	色やマークによって場所と行動を結びつけやすくする	阿南支援学校 家庭	食事スペースや自分の居住スペースなどが一目でわかるように、イラストや目印となるマークなどを用いてエリア分けをする	地域 当事者家族
	カームダウンエリアを設置する	感情的になったときに落ち着くことができる	希望の郷阿南支援学校 家庭	体育館や空き教室に間仕切りやテントを用いて、1人でも落ち着ける場所をつくり、誘導する	地域
視覚的構造化	コミュニケーションに絵カードや写真を活用する	相互のコミュニケーションを円滑に進めることができる	希望の郷阿南支援学校 家庭	自分の感情や考えを伝えるために絵カード等を準備する	行政 当事者家族
活動的構造化	作業手順を職員が実際にやって見せたり、絵カードを用いて作業手順を示したりする	口答で説明するよりも理解を得やすい	希望の郷阿南支援学校 家庭	間仕切りの組み立て方や掃除の仕方、支援物資の受け取り手順を実際に見せて教えることや、イラストを用いて分かりやすく説明するなど自立的に作業に取り組める工夫をする	地域 当事者家族
時間の構造化	個々のスケジュールを決める	1日の流れを確認でき、この後何をやればいいのか見通しを立てやすい	希望の郷阿南支援学校 家庭	個人のタイムスケジュール表を準備する	当事者家族